

地域にはばたく市民パワー！

ところざわ倶楽部「広場」

所沢市民大学修了者の会 広報紙

2015年 12月号(第89号)

発行責任者 稲村 洋二



師走 所沢市から望む 霊峰富士 仲山 富夫/撮影

ところざわ倶楽部 第9期活動方針

会長 稲村 洋二

ところざわ倶楽部の第9期活動方針につきましては、基本方針として、第8期と同様「会員による会員の為の倶楽部運営」を掲げ、会員の皆様の“集いの場”として、会員でいることの充実感を感じられるような倶楽部運営を目指して行きます。

具体的には第8期で行った満足度調査では、倶楽部の行事運営については多くの方から賛同していただいておりますが、調査で指摘された改善点等を参考に、より皆様の意見を取り入れた行事を企画し実行してまいります。

例えば、会員がサークルを超えて、集える機会(親睦会)をつくって欲しいとの意見がありました。そのような機会をつくっていききたいと考えています。

広報については「広場」と「ホームページ」があり、倶楽部と会員を結ぶ媒体との位置付けですが、「ホームページ」は会員の皆様への情報提供と同時に、会員の皆様からの意見・感想も取り入れられるような双方向性をもたせたいと考えています。また公開されていますので一般の方達に、ところざわ倶楽部の認知度を広めるような編集をおこなって行きたいと考えています。さらに第9期では、次の3つの課題に重点的に取り組みます。

まず1点目として「サークル発表会」を実施致します。これまで各サークルの活動を発表する場は、総会時に

15分程度ありましたが、各サークルの活動実態を発表するには十分ではありませんでしたし、発表するサークルの数も時間的に3サークルしか出来ませんでした。

従って、サークルの活動内容が倶楽部会員の中で共有されていませんでした。今年度は「サークル発表会」の日を設定し各サークルの活動報告を実施いたします。

2点目は「倶楽部創立10周年記念事業の企画」です。

2017年度は倶楽部創立10周年にあたります。

9期中に、この10周年記念の事業を企画し、10期に実施します。

3点目は「倶楽部の今後の『あり方』についての検討」です。

倶楽部も創立以来9年経ち、会員の年齢もそれだけ高くなってきています。サークルの活動も活動人員が固定される傾向がみられ、活動が壁に突き当たっているようにも見受けられます。

そのような状況の中で、倶楽部の今後のあるべき姿を引き続き検討していきます。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

第9期 定期総会報告

総務部長 石堂 智士

今期から、総会終了後に懇親会を行うため、会場を所沢市民文化センターミューズに決定し開催した。

第9期定期総会は11月12日（木）会員112名の出席のもとに開会され、第8期ところざわ倶楽部の総括は、5月以降に会長代行に就任した稲村会長代行が行った。現在の会員数は285名で前年比10名の増加となった。

会員の皆様のご協力を得た満足度調査の結果は、すでに公表しているが、多くの会員から支持されていることを報告した。情報発信の強化も、「広場」の配布先の拡大や「ホームページ」のアクセス数の増加で順調であった。ところざわ倶楽部の在り方に

ついて、サークルの課題を踏まえ、引き続き検討する旨を述べた。そして、第8期の主催行事が、すべて順調に行なわれ、会員および市民の多数の参加者から好評だったことを報告した。そして、各部長報告、会計報告及び監査報告があり、第8期ところざわ倶楽部報告は、全員一致で承認された。

その後、第9期の新任役員9名と新任理事7名、新任会計監査1名を紹介した。引き続き、稲村新会長が第9期ところざわ倶楽部活動方針を述べ、そのあと、第9期事業活動計画、広報活動計画の発表があり、第9期予算案の発表後に、全員一致で第9期活動報告は承認された。

第9期 新体制の顔ぶれ

～皆様のご支援よろしくお願い致します！～

役 職	氏 名	出身母体	役 職	氏 名	出身母体
会 長	稲村 洋二	理事会推薦	事業部担当理事	吉田 麗	食を通して所沢を知る会
副会長兼総務部長	石堂 智士	傍聴席	同上	小原 修一	ところ会
副会長兼事業部長	二上 拓夫	懐かしの映画・鑑賞会	同上	中村 修市	活きいきシニア福祉の会
副会長兼広報部長	仲山 富夫	民話の会	同上	佐藤 重松	理事会推薦
総務部副部長	田口 元也	所沢シニア世代地域	同上	安田 好子	野老澤の歴史をたのしむ会
総務担当理事会計	曾部 康子	葵の会	広報部副部長	当麻 実	歴史散策クラブ
同上	中原 幹男	所沢の自然と農業	広報部担当理事	玉上 佳彦	アジア研究会
総務部担当理事	本橋 清子	みんなで学ぼう認知症	同上	中島 峯生	地球環境に学ぶ
同上	宮脇 正	地域の自然	同上	海老澤愛之助	地域の自然を考える会
事業部副部長	森野 辰夫	北欧の会	会計監査	田村健一郎	理事会推薦
事業部担当理事	加藤 敏恭	楽悠クラブ	会計監査	小野ちづる	理事会推薦
同上	岡部まさ子	ドラマティックカンパニ	———	———	———

11 月度 理事会報告 (11月9日(月)開催)

総務部長 石堂 智士

1. 総務部案件

- 1) 第9期サークル代表交代・新任理事の紹介
- 2) 総会準備の最終確認
- 3) 新入会員の募集結果 14名
- 4) 決算報告・来期予算の説明・承認

2. 事業部案件

- 1) 公開美術講演会の報告 参加（会員65名 一般72名） アンケート結果 良い95%
- 2) 総会後の懇親会の説明 懇親会参加90名予定

3. 広報部案件

- 1) HPの引継ぎ 12月まで岡田俊吾氏、1月より玉上佳彦氏
- 2) 広場12月号編成案の説明
- 3) 第9期サークル広報委員選出依頼

4. その他

- 1) 来期総会は11月22日 ミューズ5Fに決定
- 2) 次回理事会は12月14日（月）新所沢東公民館で開催。終了後、総会資料・会費振込み用紙などの郵送作業を行なう

事業部活動方針

事業部長 二上 拓夫

1. 活動方針

各サークル間の交流はもとより、会員相互の“出会いと集いの場の提供”をテーマに掲げ推進する。

2. 活動計画

1) 公開講演会

時事問題や話題に対し、タイムリーな講演を考え実施する。

2) 文化祭

5回を数える文化祭です。早めに実行委員会を立ち上げ、内容のより具体的情報を各サークルへ提供し、会員の積極的な参加をお願いする。

3) 文芸講座

有料講座とし、会員と一般参加者の対応（公募方法、参加費等）を考える。

4) サークル発表会

各サークルの活動内容が倶楽部会員に十分に共有されていませんでした。9期は発表会を設定し各サークルの活動報告を実施する。

3. 事業部の運営

◆ 平成28年度 事業計画

月	内 容
1 月	公開講演会
3 月	公開講演会
5 月	第5回文化祭
7 月	文芸講座（有料 連続講座）
9 月	サークル発表会
11 月	総会・懇親会
不定期	サークルの提案事項により開催

◆講演については講師の都合により、実施日及び講演内容を変更することがあります。

◆市民大学講師及び以前に講演をしていただいた講師との繋がりを常に持つようにしていきます。

広報部活動方針

広報部長 仲山 富夫

1. 活動方針

ところざわ倶楽部の理念である、①学習活動の継続 ②会員相互の親睦 ③学びを地域に生かす ④ネットワークづくりを念頭に置き、「広場」の編集活動に当たる。倶楽部の事業、各サークルの活動内容に編集の重点を置く。また、5年目を迎える「HP」制作の組織を再編し強化を図る。

2. 編集体制の強化

1) 各サークルに広報委員を置き、広報部との連携を深める。広報委員会議を開催し、広場・HPの企画、編集内容のあり方についての検討を行ない、広報活動の充実を図る。

2) 28年1月より、HP担当が交代。

新体制による情報収集と編集内容の強化を図る。

(1) 各サークルからの活動計画・活動報告を掲載し、内容の共有化を図る。

(2) 「広場」「HP」へ、投稿し易い新企画を提案していく。

(3) 市民大学、さんさん会、OB会との情報交換を進め、活動紹介等を行う。

3. メディアへの情報の発信、認知度UPを図る。

具体的には、「広場」の配布先を、市民大学、所沢記者クラブ、野老澤町造商店、公民館等へ情報発信を継続する。

第9期編集委員紹介

氏 名	担 当
稲村 洋二	倶楽部会長・発行責任者
仲山 富夫	広報部長・編集長
当麻 実	広報副部長・企画編集担当
玉上 佳彦	HP担当・企画編集担当
池田新八郎	企画編集担当
島川 謙二	企画編集担当
中島 峯生	企画編集担当
海老澤愛之助	企画編集担当
八木 雅子	企画編集担当・印刷発送
新井 智子	企画編集担当・印刷発送
長岡 慶一	企画編集担当

*「広場」「HP」へ、皆様の思いを綴ったエッセイや写真作品などを投稿下さい。お待ちしております。

サークル活動報告

雑木林の保全と緑を守る

地域其自然 宮脇 正

私たちは、早稲田大学のB地区と、みどりの森博物館所沢市域の0.7ヘクタールの2か所で雑木林の保全活動をしています。保全活動を始めてB地区は7年目、博物館は3年目になります。当初は、竹が伸び常緑の木で陽が入らない暗い雑木林でしたが、下刈りを市民の方々にお手伝いいただき、木漏れ日が入る良い雑木林になりました。

雑木林の保全活動以外にも、様々な活動があり、その一つが里山の循環型農業の実践です。落ち葉掃きをして、堆肥を作り、サツマイモを育てています。秋の収穫イベントには、市民40名位集まっていたが、作業の前に循環型農業の座学をして、理論武装してから収穫作業です。収穫したサツマイモは、作業をお手伝いいただいた方におすそ分けしました。

また、今年は私たちの活動に武蔵野銀行の”みどりの基金”から助成金をいただきました。助成金は、主に雑木林の中の植生調査に対してで、今年の春からは植生調査が活動の主になりました。植生調査は、B地区の私たちの活動場所の中に1m×1mに区分け

したコドラートを5か所設置し、植生の種類や成長を継続して記録する事や、相対照度の計測を毎月実施しました。写真は、皆で頭を突き合わせて、図鑑を見ながら植種を同定している所です。5か所のコ



ドラートで29種の植物が確認出来ました。

もう一つの活動場所の、みどりの森の博物館では、春にGFN所沢（大堀 聡先生が理事をされて

いる団体）と協力して、樹木に番号を付け、名前と直径、大まかな高さを測定し、記録し各樹木に名札を取り付けました。なかなか覚えられない樹の名前を覚えるのに大変役に立っています。GFN所沢と協力して森の散策会を実施し、春には八幡湿地保存会の皆さんの田植えを手伝いました。

私たちのサークルでは、このように緑に係る活動を通じて雑木林の保全、緑を守る活動を、”学び”と”楽しく”をモットーに実施しています。

サークル活動報告

食から世界が見えてくる

食を通して所沢を知る会 岡部まさ子

私たちのサークルでは、所沢の農産物の生産、流通、消費の実態を学び、情報収集して、地産地消のレストランを掘り起こし、発信する事を活動の一つに掲げているが、その一環として、11月はコロット代表の峯岸氏から「地産地消の現状」についてお話を伺った。所沢を代表する農産物には、里芋、人参、ほうれん草があるが、生産者の高齢化が進み、耕作放棄地の増加、反面、若者の就農が減少していく中で、地元の農産物を新鮮で美味しく、消費者に提供する「地産地消」の推進や安全性の確保、直売所等の販売方法の確立等、生産者と消費者をつなぐ役割を、様々な試みを通して切り拓いている様子が伝わってきた。「まだまだ生産者が需要に十分対応出来ていないが、少しずつ後継者が育っている。今後も4Hクラブを通して、若い就農者を育ててい



うどんを作る

きたい。また生産物の安全性を重視する時、曲がったきゅうりでも市場に左右されずに外見より中味の確かさを選びとる消費する側の価値観の変革も大切。生産者と消費者の顔と顔が見える関わりの中で、お互いの信頼感がよりよい物を作っていく土台になるのでは」と峰岸氏。私自身、子育ての中で成長する子供達の健康に留意し、何よりも安全性を重視した生産者から、生産の過程が分かる生産物を安定した価格で購入し続けて40年、「食べることは生きること」「生きることは食べることを実感している。食への取り組みは、その人の生き方にもつながり、心身の健康への影響は大きい。様々な分野でグローバル化した現在、食という窓口を通して、経済が見え、農政や流通等の政治が見え、国のあり方や世界が見えてきた。ところ産直プロジェクトの促進役として、「心身共に健康を育み、故郷（ふるさと）の風景やつながりを大切にして、地域社会に貢献する」という理念のもとに活動している若きリーダーに、今後とも惜しみないエールを送りたいと思う。

「戦後 70 年を振り返る」シリーズ 第 8 回

私と母の戦後 70 年

懐かしの映画・鑑賞会 新井 智子

母のセピア色の戦争写真



私の大好きな母のアルバムは、私が小学生のころ母の誕生日にダンボール紙を鋏で切って、工作で作ったものです。表紙の絵は絵具で私が描きました。

母は大喜びで沢山の写真を貼っています。そこに貼られている忘れられない一枚があります。それは母が娘時代にお兄さんと写真屋さんで撮った一枚です。立ち姿の伯父は足にゲートルを巻いた勇ましい軍人の姿。母は緋の着物、頭には姉さんかむりの手ぬぐいをかぶっています。母は伯父の隣で嬉しそうにしなだれて座っています。健康的に歯が真っ白で恥ずかしそうに微笑んでいます。

母は当時恋人がいなく親友が、いいなづけの海軍の将校さんを休みの度、駅に迎えに行くのが羨ましかったと言います。勿論その後、母も目出度く父と巡り合い結婚したのだから、そう縁がないわけでもないが、父とは見合いだそうです。当時、戦争で男性は兵隊に沢山とられていたので、えり好みできなかったと母は言います。父の顔は鼻筋が通っていて悪くはなかったが、母はまだ嫁に行く気になれず迷っていましたが、父が毎週遠路はるばる自転車でセッセと通いつめるので、ついに承諾したと言います。写真で一緒に伯父さんは三度も召集されて戦争に行ったそうです。母はその話をサクサクと言うので幼い私も泣かずに聞いた戦争の話ですが、実はとても恐ろしいものであります。多分伯父さんも帰ってきて誰かに話さずにはおれず、母に話したのかもしれませんが、何処の国の方だかはよく覚えていないが、負けた方の方々にとてもひどいことを・・・(伯父さんも聞いた話でしょうが)今こうして書いていても具体的な内容を思い出して手が震える。怖いですよ。戦争は絶対にだめ。勝っても負けてもだめ。人は終わった後の恐怖に耐えられるほど強くはないのです。「北風と太陽」の話、大好きです。溢れる優しさで心に吹き荒れる戦いを食い止めましょう。

家を守って半世紀

さて、母は無事結婚し嫁いで来ましたが、姑の他に幼い小姑がまだ沢山いて、自分の子供のように子育てをしなければならず、おまけに姑がきつかったので、父に頼んで会社を辞めてもらい家にいてもら

ったという。父も優し過ぎると思うが、転職して母と農業をはじめ、田畑の他に北海道から乳牛を買い酪農もやり養蚕もやり、それは多忙で時々我々子供達も駆り出されるありさまでした。でも私は動物が大好きなので、仔牛の生まれる瞬間も神秘の目で見られ、すごく楽しかった。おかげで「赤ちゃんはどこから来るのー」なんてかわいいセリフが言えるウブな子供ではありませんでした。実地で見えて知っていましたから。祖母の名前は「金」と言いました。多分「金さん銀さん」と同い年くらい。当時、うちは「ちりめんや」(金お婆ちゃんの仕事でした)と近所では呼ばれていました。今も呼ばれています。「ちりめんや」には金さんの娘の千代ちゃん(伯母)がいて、右隣の紺屋には染めちゃんがいて、左隣の床屋にはトコちゃんがいたのです。本当の話です。まあ私はいわば糸やの娘でして「目で殺せる」わけです。その頃ご近所さんが実に騒々しい事件ばかり起こしましてね。ある時など、ご近所のおじさまの(不適切な関係)?なる人が夜遅くうちを訪ねてきたことがありました。花柄スカーフをかぶったその女の人の顔は今も覚えています。うちに「〇〇さんの家を教えてください」と来たのです。その後、そのおじさまは、ある日突然踏切事故でオートバイもろとも亡くなったのです。とにかく周り中いづものにかしら課題を抱えていて、それこそ「事实は小説より奇なり」でビックリポン状態、幼い私は後の人生で何があっても驚かなくなりました。母は姑を大事にし、近所には親切で夫や親戚を尊重し黙して家を守り通しました。

父亡き後の母

母の子は女ばかりなので母は婿をもらった姉たちと暮らしています。母は書道が得意です。般若心経など書いて私に送ってくれます。父が 89 歳で世を去った後、時々ディケアに通っています。そこで初めてボーイフレンドができたそうです。といってもお互いいい年ですから、書道の紙を交換したりお菓子をもらったりするくらいだそうです。でも私と姉は心配で「人の目があるんだから、目立つことは一切するな」ときつくいっています。母のボーイフレンド曰く「貴女のように可憐で童女のような人は、はじめてだ」。母はそういう人です。

「出会い」シリーズ第6回 私を育んでくれた出会い

活いきシニア福祉の会 佐藤 重松



誰でも、長い人生の道々で、心に残る数々の出会いがあり、その出会いこそが心豊かな人生へと導いてくれた、と感じる場面があるのではないのでしょうか。私にも今日まで、幾多の心に残る出会いがありました。ここでは、幼少期から青年期に至る過程で「道標」とも云うべき幾つもの教えを頂きました。また、「心騒ぐ青春の淡い恋心」など忘れ得ぬ人々が私の胸に・・・

1) 小学校が全焼しました

「灰の中から起つ者は強し！」

昭和 31 年 1 月 15 日成人の日、小学校が全焼しました。雪が深々と降り注ぐ中、校長先生は、燃え盛る校舎の前で茫然と立ち竦んでおられました。

その日、講堂で成人式が行なわれ、式典の終了後、大人になったとばかりに、愚か者が喫煙し、そのタバコの不始末が失火の原因でした。

翌日、数百人の全校生徒が校庭に集まり、校長先生は全校生徒の前に立ち、その姿は、一夜にして頭髮が抜け落ち、子供心にも痛々しいばかりでした。そして、この火事について、縷々述べられましたが、最後に「灰の中から起つ者は強し！」と小学 4 年の新春の忘れられない出来事でした。「灰の中から・・・」の教訓は、10 年の時を経て自分が成人の日を迎えるころ、その持つ意味をかみしめました。

2) 「技量三分に意気七分！」

「静中に動あり、動中に静あり！」

中学時代は野球部で明け暮れました。ボールが見えなくなる夕暮れ時まで熱中しました。教師であり、監督となった先生は、練習につけ、試合に臨むにつけ、その時々に応じた「教訓」を述べられ、何かもの事に向かう時に、腹を据えてかかる心構えを学び、いつも時々の言葉が胸中に甦



り、今でも勇気づけられます。

3) クラス宛に「文通しませんか」の手紙

中学 3 年の春に急性腎臓炎で入院しました。退屈な日々を過ごしている時、クラスメイトが見舞いと共に、名古屋の同学年の女子からの手紙を持って来ました。誰も返事を出していないとのこと。

文面には「私はクラスで“イモ”と云うあだ名で呼ばれています」とブサイクなイメージが表現されておりましたが、整った文字で、文章全体は優しい感じを受けました。男ばかりの兄弟で育った私には新鮮でした。辞書を片手に、誤字・脱字の無いように、文章や手筆は拙くも丁寧に書いて出しました。

果たして返事が来るだろうか・・・来ました！返事が来ました。感動しました。更に封を開いて、ときめきました、2 枚の写真が入っていて、とてもチャーミングな可愛い子でした。以来 8 年間、社会人となるまで続き、その間、名古屋で会うことも出来ました。手紙を心待ちにした 8 年間、辞書を片手に手紙を綴った年月でもありました。半世紀近い時が流れ、彼女はどんな人生を歩んだのだろうか・・・

「心騒ぐ青春の日々を」ありがとう！

4) 「教えとは希望を語ること

学ぶとは誠実を胸に刻むこと」

高校時代は、1 年から 3 年に至るまで 3 人の先生に恵まれました。彼らは大学を卒業して、直ぐに教師となり、私と 10 歳と離れていない方々。

とにかく教育熱心でした。教科より課外授業的に、ものの見方・考え方、歴史や社会科学についてよく議論をし、生徒会活動へと誘導され、私は全校生 1800 名の選挙で生徒会長に選出され、2 年間没頭し、貴重な経験を得ました。今振り返れば、60 年安保闘争に青春を燃焼した熱血漢だったように思います。3 人の恩師は、30 代・40 代・50 代で若くして他界しました。

しかし、あの時代に、真剣に向き合い語り合った熱い思いは今でも道標です。

沢山の「出会い」に感謝！有り難うございます。

サークル活動計画

興味のある活動に参加してみませんか？

アジア研究会（玉上 佳彦 2942-3315）

12月16日(水) 定例会 13:30～16:30 中央公民館
第8期活動報告、会計報告、第9期活動計画作成など
12月22日(火) 忘年会 12:30～14:30 徳樹庵
1月20日(水) 定例会 13:30～16:30

傍聴席（高垣 輝雄 2926-7164）

12月21日(月)学習会、14時～ 新所沢東公民館
テーマ：市議会を身近なものに～傍聴にそなえて定例会の
イロハと資料の見方・探し方などを学びます。
(詳細は倶楽部のHPをご覧ください)

地域の自然を考える会（海老澤愛之助 2922-0259）

12月22日(火)定例会 新所沢公民館 13～15時
同日 場所未定 忘年会
新体制で初めての会になりますので、奮ってご参加をお願いいたします。 広沢さんも出席の予定です。

地球環境に学ぶ（塚本 二郎 2942-3117）

12月15日(火)定例会 15時～17時 新所沢東公民館
環境問題持ち寄り発表・話し合い。環境問題に関心のある
方傍聴歓迎します。(その後に忘年会)
1月19日(火)定例会 9時～11時 新所沢東公民館

楽悠クラブ（福田 晴男 事前連絡は不要）

12月14日(月) ①総会 ②DVD「ドミンゴ・コンサート イン・
ジャパン2011」(東日本震災鎮魂コンサート)
1月12日(火) DVD「オーケストラが奏でる時を越えた物語」
いずれも(場)中央公民館 #1 8、9学習室 13:15～

歴史散策クラブ（大河原 功 2943-2004）

12月 5日(土) 所沢旧町めぐり
集合場所・時間：所沢駅改札口前9:30
12月12日(土) 総会&忘年会
集合場所・時間：新所沢東公民館15:00

北欧の会（樋口 俊夫 090-6483-7993）

1月30日(土) 第64回例会 13時20分～
今年の計画、北欧旅行報告 持ち寄り学習
2月27日(土) 第65回例会
新所沢東公民館

地域の自然（宮脇 正 090-9847-4585）

12月12日(土) 早稲田大学B地区 雑木林保全活動
12月26日(土) みどりの森博物館
所沢市域雑木林保全活動

所沢の自然と農業（清水 仁一 2944-8835）

12月10日(木)～15日(火) 景観まちづくり展示会(市役所)
12月20日(日) くぬぎ山・駒が原の森手入れ
1月 9日(土) 陽子ファーム落ち葉掃き
1月14日(木) 三芳町伊東農園落ち葉掃き準備

ドラマティック・カンパニー（佐藤 滋 090-1540-0161）

12月5日(土) 9:30～11:30、12月26日(土)10:00～11:30、
1月23日(土)10:00～12:00、1月30日(土)10:00～12:00
12月5日及び1月30日は新所沢東公民館、それ以外は新所沢公民館。
「ロミオとジュリエット」を読み進めます。シェイクスピアを楽しく深く学べます。

葵の会（池田新八郎 2940-0711）

12月17日(木)第4回文学講座「宮沢賢治秩父に行く」
中央公民館 13:30～16:00 講師：小川達雄先生
1月14日(木) 第1回「方丈記」終了後「新年会・総会」
詳細は後報

野老澤の歴史をたのしむ会（小倉 洋一 2949-4695）

12月17日(木) 定例総会・懇親会
中央公民館 13:00～15:00 学習室 7号
懇親会 15:30～18:00 さかなや道場

ところ会（居田 治 2903-8400）

12月 4日(金):紅葉の品川を歩く
1月15日(金):川越七福神めぐり
2月19日(金):奥秩父の冬の名勝「三十槌の氷柱」、
宝登山 ロウバイをめぐる

懐かしの映画・鑑賞会（二上 拓夫 080-1250-6151）

12月8日(火) 10:00～12:30 西新井町公民館
邦画「地下鉄に乗って」(04年)堤真一・岡本綾・大沢たかお
正月休みに入ります。次回は
H28年1月26日(火) 10:00～12:30 西新井町公民館

民話の会（仲山 富夫 090-3902-0283）

12月18日(金) 中央公民館 学習室5号 13時～
「弘法の三つ井戸」「河童の詫び証文」の読み合せ
1月15日(金)定例会 2月イベントへ向けて、読み合せ
2月 9日(火) 所沢南小学校で「民話を語る会」

食を通して所沢を知る会（吉田 麗 2939-9662）

1月5日(火) 定例会 10:00～12:00 場所 ふらっと学習室
1)平成27年度 活動の反省
2)平成28年度 年間活動計画立案

みんなで学ぼう認知症（本多 義博 090-3144-1438）

12月7日(月)9:30～生涯学習推進センター
第2回けん玉講習会開催 講師：久米岳晴氏
1月25日(月) 13:30～15:30 生涯学習推進センター
笑いヨガ体操 講師：河原千恵子先生

所沢シニア世代地域デビュー支援の会（田口 元也 090-9820-5668）

12月15日(火)11:00～12:30 定例会
・議題 ①年間活動計画案検討
②公開セカンドライブ講座の取り組み検討、ほか
・所沢中央公民館 5号学習室

活いきシニア福祉の会（中村 修市 090-1616-6733）

12月16日(水)10:00～12:00 定例会
生涯学習推進センター
1. 平成28年1月～3月定例会の計画立案
2. 平成27年度定例会の反省及び福祉への思いを語り合う

広報部会議

12月21日(月)10:00～12:00
広報委員会議 中央公民館 学習室3号
1月 8日(金) 9:30～15:00
「広場」「HP」編集会議 中央公民館 学習室1号

【私の健康法 第31回】

～歩くを楽しむ～

歴史散策クラブ 大河原 功



家に籠っていると感受性は衰える。探究心、好奇心をなくすと何事にも無関心になる。そして、歩くことが苦痛になってくる。これが老いの始まりだ。

私の日常は、午前か午後の半日を歩くことで過している。幸い、拙宅は不便だが自然には恵まれた地域にある。

四季折々移ろい行く自然は美しく、感嘆の悦びを提供してくれる。野道に咲く草花は健気だ。畑の作物は主人の足音を聞いて育つという。今年の出来は如何ですか？などと農家の人と話すのも楽しい。野道の草いきれに出会うと、野原で遊んだ幼い頃を思い出し嬉しくなる。

富士山を仰ぎみて大きな深呼吸をする。そして、お地藏さんには静かに手を合わせて頭を垂れる。何と清々しいことだろう。

社寺は住民の支柱で心の故郷だ。毘沙門堂に寄ると、珍しく“おびんずる様”にお会いできた。今日は何か良いことが、と雑木林の道を進む。一瞬の風が吹き、卒塔婆がカタカタと鳴った。突然黒い物が動く。一羽のカラスが飛び立って行った。多福寺ではコクグラの屋根の葺替が行われていた。萱は千石原産、職人は群馬県と教えてくれた。

新たな出会い・発見・感動には心がときめく。
「♪おてて つないで…」の如く、野道を歩き小鳥になって歌をうたい、元気よく靴をならそう。



むさし野俳句会（二十七年十一月）作品抄



玉砂利の蹠にひびく菊日和
有明の冬満月に旅立てり
水難の碑のある土手や木の実落つ
切干しや食後はいつも祖母の膝
落葉掃く憂ひしことの遠のきて
肩を出す大根に夕日さしてをり
冬の月背にして無言機動隊
コンサートはねし人込み冬の月
あれこれと選りて組む布冬灯
枯葉散る散るにまかせし並木道

小林 貞夫
小林 典子
佐藤 八郎
白神 恵子
高梨 千代
高橋 三加子
高光 泉
利根川 啓一
中嶋 弘子
中村 直子

十二枚の小鉤の足袋や庭手入れ
生国は柿吊すころ空遙か
枯葉ちる古刹の磴を昇りけり
ことごとく朴の落葉の反り返る
返り花忘れ上手になりけり
板塀の落書き美し冬すみれ
冬日射す電車の床の綿埃
風一夜腹を背に反る朴枯葉
銭湯の行きも帰りも冬の月
靴音のすれ違ひけり冬の月

橋本 佑子
平栗 彰子
宮本 信生
荒幡 千鶴子
飯泉 陽子
井出 昇
海老澤 愛之助
粕谷 のぼる
河瀬 俊彦
鈴木 征子

《 編集後記 》

▼今年の新企画「戦後 70 年を振り返る」「出会い」「川柳」が、ともに好評であることは、企画の重要性を感じます。読みたくなる、ともにあるという共感を呼ぶような「広場と HP」を作っていきたい。

▼「葵の会」で国立能楽堂の能「紅葉狩」を鑑賞。すり足が美しいし、一般人なら 5 秒で行けるところを 32 秒ぐらいかけて行くテンポ、つづみの音のひびきがいいですね。外国人も観ていましたが。

「非日常性」のひとつときは人間を元気にしてくれます。「学ぶことのたのしさ」と「たのしく学ぶ」ことを実現して行けるからです。

▼瀬戸内海の「鯛釣りの名人」が「コツは？」と聞かれて「あせらず 怒らないことです」と。いい言葉です。「あせらない」ことは「待つ」ことです。生真面目すぎる「ところざわ倶楽部」が変わるのを「待つ」ことにしましょうか。伝説の数学者・岡 潔さんが「非真面目のすすめ」を言っていましたね。

(庵閑子)

「広場」問い合わせ 仲山 富夫 (090-3902-0283)

川柳④

課題「鍋」

作品発表

中島峯生 選

湯気立つて海山里の大合唱
数えたら十日つづいた鍋奉行
湯気の中メガネの先はヤミの鍋
大鍋にシヤベルを使う美味い秋

りんご好き
常連客
貧乏性
方声

「自由句」

演じるなら健さんの妻夢だけど
なりたいのは白蓮華子どつちかな
晴れやかに出かける妻に今日はどこ
爺と婆小旗振りふり孫を追う
痛み止め飲んで益益痛み入り
漢方薬中国人も買いいさる
クスリより百倍効いた孫パワー

瞬間湯沸かし器
縄文人
庵閑子

お題「先生」又「自由」12月20日 担当中島まで

宛先 mh-naka@com.home.ne.jp

FAX04-2928-1161